

# 中養可ムス。

大阪市中学校  
特別支援教育  
担任者会  
第81号(7・8B)  
令和元年9月20日

## 小中一貫校の特別支援教育

本校では、小中一貫校として開校5年目を迎えました。体育大会を合同で行ったり、中学校の文化祭に小学生も参加したり、校外学習に小中合同で行くなど、学校全体を通して連携に取り組んでいます。特別支援教育でも、一貫校が開校するにあたり、さまざまな取り組みを行ってきました。今回は、今まで特別支援教育で行ってきた取り組みについてご紹介します。

## 9年間で考える生活単元学習

小学校1～6年生、中学校1～3年生(以後7～9年生で表記)の9学年で取り組むにあたり、全員が一緒に活動する時間と1～4年生までが活動する(First)5～9年生が活動する(Second)の時間を週に1時間ずつ設定しました。これには、多くの児童生徒が抱える社会性、自立などを小集団で取り組むことで、児童生徒の力を確実につけていき、将来の社会参加へつなげるという狙いがあります。また、取り組みを行う上で、次の4点を重点目標に置いています。

- ①自分の役割を最後までやり遂げる力
- ②自分の気持ちを表現する力
- ③生活力(身だしなみ、挨拶、お金の使い方など)
- ④協力する力

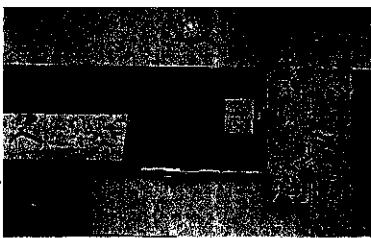
これらを視野に入れながら、個々に課題設定を行っています。

毎年、〇〇屋さんという、大きなテーマを設定し、そのテーマに沿って、栽培学習や調理実習、販売学習など様々な学習を行っており、開校1年目はポップコーン屋さんを開店しました。

イエローポップという種類のトウモロコシを校内の畑に植え栽培しました。毎日の水やりも当番制にし、全員で育てました。最終目標はポップコーンの販売なので、店員さんとしての接客練習も行いました。その中で、お金の計算方法や店員さんとしての言葉づかいなどを学んでいきました。また、お店の名前やポップコーンの味付けは、ICT教育を踏まえ、タブレットと大型ディスプレイを用いてプレゼン練習にしました。その発表をもとに、上級生が中心となり全員が意見を出し合い、決めていきました。お店の名前が決まると看板を作り、味を何種類かに絞り、試作会で実際に調理実習を行いました。

販売当日には、本校の教職員や保護者の方がお客さんとなります。3チームに分かれ、他のチームに負けないように大きな声で呼び込みを行い、丁寧な言葉づかいで接客ができました。すべてのチームがポップコーンを売り切ることができ、みんなとても喜んでいました。売上も自分たちで計算し、計算結果をみんなの前で発表しました。2年目はたこ焼き、3年目はパンケーキ、4年目はお弁当をテーマに取り組んできました。そして5年目の今年は、パン屋さんをオープンさせるための準備を行っています。

また、昨年度は取り組みのまとめとして、兵庫県にあるキンザニア甲子園へ校外学習に行きました。中学生は以前も行っていたが、生活単元学習のまとめとして、昨年度からはSecondのメンバーで行くことになりました。電車でのマナーや現地での活動も、中学生が中心となり、行動ができており、上級生が模範となる場面が多く見られ、小中一貫校としてのメリットも実感できました。



一貫校としての一つのテーマ、生活単元学習を1年間取り組む中で、子どもたちのたくさんの成長を見ることができました。例えば、通常の学級ではまとめ役になれない子が積極的に話し合いの中心となり、みんなをまとめたり、発言することが苦手な子が、自分の意見を発表できたり、意見が分かれたときにどうするか話し合ったり、譲り合ったりと自分たちで課題を解決しようとする姿がとても印象的でした。

また、クラスに戻った際も、積極的に手を挙げるなど、自分がクラスの一人だという自覚を持ち、クラスでも前向きに共生できることが増えてきています。

調理実習の時期になると、ハンカチ・ティッシュ・服装・爪のチェックを毎日行い、自分で持ち物や身だしなみを意識できるような取り組みも行いました。チェック期間が終わった後も、身だしなみを気にする生徒が増え、ハンカチやティッシュを持っていて当たり前という習慣が身につきました。

今後も児童生徒が主体的に取り組むことができ、達成感を感じられる生活単元学習を考え、提供していきたいと思っています。

(いまみや小中一貫校  
大阪市立今宮中学校 多賀井 潤)

## 昭和中学校

### 新年度が始まって

今年度は、昭和中学校で特別支援学級に在籍する生徒は1年生3名、2年生4名、3年生5名の計12名で、そのうち5名がそれぞれ抽出の時間に支援学級（ステッパアップルーム）で勉強をして、保護者との連絡帳のやり取りもしています。あとの7名は通常の学級で全時間、授業を受けていますが、登下校時や放課後にステッパアップルームに集まって、一緒に過ごすこともありま

す。  
1学期、1年生は一泊移住、2年生は校外学習、3年生は修学旅行と行事が続く中、支援学級の生徒たちも元気に参加し、学年やクラスの友達と交流を深めることができました。

### Rさんについて

今回紹介する中学1年生のRさんは、筋ジストロフィーで小学4年生の3学期から車いすを利用しています。

《朝の登校時》保護者が付き添って車いすで登下校します。朝の登校活動のところで保護者から引き継ぎます。ステッパアップルーム（特別支援室）で本日の授業の教科書をチェックし、教室へ移動します。教室では座席に移動し、

荷物整理をした後に朝の学活や朝の読書を行います。（週に1回ずつの全校集会と学年集会がある日は、早めの移動をします。）

《授業時》移動教室の時は教師が付き添います。土足禁止の場合は、車いすのタイヤを拭くことにより入室します。

《昼の時間》手洗い・トイレ、時には給食当番を行い、給食をいただきます。昼休みは、基本的に教室で過ごします。

《放課後》清掃活動を職員と一緒に頑張ります。月に1回の保健委員会の活動もします。コンピュータ部に所属しているのので、検定試験に向けてタイピングを頑張っています。その後、ステッパアップルームで待機し、保護者に引き継ぎます。

《保護者との連携》本日の活動内容と今後の連絡を行います。確認として連絡帳も利用しています。今現在は、教室の机を利用してあるので、座席と車いすの移動にエネルギーを使います。

2小1中で、5分の4は同じ学校出身ということもあり、また、他の小学校の生徒への理解が進んだこともあり、学校生活には馴染むことができています。支援の基本は教師がするのですが、要所所で、気を利かせて生徒たちが手伝っています。インクルーシブ精神で、交流をすることができています。

### 一泊移住について

5月9日（木）・10日（金）の2日間、信太山青少年野外活動センターに行きました。到着後、クラスビルディングという活動を通じて絆と団結力を深めました。車いすでもできる種目を選んで活動ができました。

夕食の後、体育館で室内オリンピックを行いました。クラス対抗で勝利を目指し、たくさん声援を送り、全力で楽しみ、大いに盛り上がりました。2日目はフィールドサーチで自然を体験し、その後、野外炊事では各班協力し、おいしいカレーを作ることができました。車いすを使って幅広い活動ができました。とても充実した2日間を過ごすことができました。まわりの生徒もRさんの一生懸命な姿勢に影響を受けたようです。

Rさんが特に心に残った取り組みは、室内オリンピックだそうです。新聞を切って長さを競う「マラソン」と紙飛行機を作って飛んだ距離を競う「紙飛行機」とばし「が楽しかったそうです。周りの生徒と協力しないとできないことなので、みんなの仲がより一層良くなったことが嬉しかったようです。信太山駅と野外活動センターの道のりが坂道なので、支援をする中で特に気を配りました。（帰りの下り坂の方が気を使いました。）

### 夏休みの取り組み

自宅が長居公園に近いこともあり、長居障がい者スポーツセンターで水中トレニング（水中移動）を行いました。水泳が得意ではないのですが、何回も往復しました。車いす利用に優しい配慮がなされていて、快適に活動することができました。これからも、利用していきたいと思っています。



\*本人にとって最も適切な、「個に応じた」指導を心掛けるとともに、学級学年の「ともに成長する」姿を見守りたいと思います。

（大阪市立昭和中学校 菊地英喜）

# 中養可イムズ。

大阪市中学校  
特別支援教育  
担任者会  
第82号(1・2B)  
令和元年  
11月27日

## A君とB君の国語の授業

2人は国語の授業を支援学級で受けています。その国語の授業で継続して学習している(取り組んでいる)ことが3つあります。それは①漢字の読み取り②漢字の書き取り③エロバイクです。今回はこの3つの取り組みを紹介させていただきます。

### ① 漢字の読み取り

#### ☆学習方法

- ・通常の授業で取り組んでいる教材の範囲から6文字までの熟語を20問出題する
- ・まず1度、漢字に読み仮名を書いて覚える
- ・口答でテストする(全部言えるまで繰り返す)
- ☆この学習のキーポイント  
「答えを文字で書くのではなく答えを言う」とことと「20問全部答えた(言えた)」という経験を積み重ねることです。

#### ☆A君にとって

A君は聞いたことを正確に文字にするのがとても苦手です。濁点を付ける付けないが逆になることが多いです。(例)加速↓かぞく口答ではちゃんと書いても文字で書くとき間違えます。この取り組みではあえて苦手なことを避けています。「できた!」という達成感やできたという経験で自信をつけることを主眼に取り組んでいるからです。(保護者も「自信をつけさせてほしい」と切望しています)

#### ☆B君にとって

B君は視覚から(文字から)の情報を理解す

る力がとても弱いですが、聴覚からの情報はとても理解し、しかもよく覚えていきます。この学習は発音することで聴覚から情報を得て、しかも文字で答えなくても良いのでB君にとっては得意分野になります。B君はこの取り組みにおいて優等生になれます。

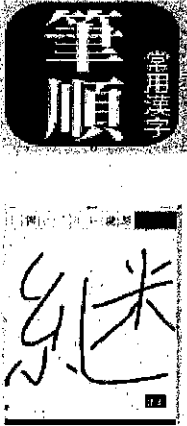
### ② 漢字の書き取り

#### ☆学習方法

- ・通常の授業で取り組んでいる教材の範囲から2文字の熟語を5問出題する。
- ・①の「筆順」というアプリを使用する。
- ・1文字を①に書く。
- ・その文字の書き順を練習する。
- ・プリントで書く練習をしてテストをする。
- ☆この学習のキーポイント  
「筆順」というアプリを使用することです。このアプリで①の画面に漢字を1字書いても文字が歪んでいれば認識されず書き順の練習ができません。ある程度正確に書かないと何度も書き直すことになってしまいます。

#### ☆A君にとって

①の「筆順アプリ」は「丁寧に文字を書こう」という意志が全くないA君には最良のアイデムであると感じています。文字を認識しても



#### ☆B君にとって

①の「筆順アプリ」は「丁寧に文字を書こう」という意志が全くないA君には最良のアイデムであると感じています。文字を認識しても

らえないと次へ進めないもので丁寧に文字を書く意識付けになっています。(実際は「えっ!これで読み取れるの?」ということも多いです)

#### ☆B君にとって

物を見て形をとらえることが大の苦手なB君には①の「筆順アプリ」を使つての学習(大きな①の画面に大きな文字を書く)はとてもよい訓練になります。また書き順が全くデータラメなB君には正しい書き順を書かせることも意義がありますが、今のところ全く効果は現れていません。

### ③ エロバイク(バーチャル自転車旅行)

エロバイクの取り組みは国語の学習の範疇ではありませんが「学習の負担が過度にならない様に」「目標を持って継続して取り組み」「運動不足解消、筋力、持久力アップ」「気分転換」「ダイエット」等をねらいとして取り組んでいます。

#### ☆取り組み方法

- ・決められた時間(今は6分)漕ぐ
- ・6分間の走行距離を記録する。総走行距離を計算し記録する
- ・バーチャル自転車旅行の記録をYahoo!マップに到達点を記録する
- ・Googleマップのストリートビューで現在到達点の風景(街並み)を見る

#### ☆この取り組みのキーポイント

しんどいトレーニングをバーチャル自転車旅行と組み合わせることで目標を持って飽きずに取り組めることです。

#### ☆A君にとって

電車が好きなA君は新大阪駅を出発して新

幹線の線路上を鹿児島に向かってバーチャル自転車旅行をしています。(これは失敗でした。線路上はストリートビューが見られない)現在北九州市を走行中です。A君は必死でとか全力で取り組みはあります。(6分で2kmちょっと)しかし真面目で「しなきゃいけない」で取り組みますが「今日は2km目指すぞ!」のような気持ちで芽生えてほしいと願っています。

#### ☆B君にとって

自宅を出発し日本海側を通って山形県に向っています。現在新潟市を走行中です。B君は6分間をハアハア、汗だくになりながら自分の限界ぐらいの全力で取り組みます。(6分で3.5~4km)またライバル視しているA君(A君はB君に対し無関心です)を絶えず意識し記録を見比べています。(2人の総走行距離が同じぐらいになるようにA君の取り組み回数を増やしています)こんなに頑張っている自分を認め安定した成長に繋がってくれることを望みます。



### 〇まとめ

「こんな取り組みもあるのか」と参考になればという気持ちで紹介しました。評価していただけるかどうかは不安ですが、安定して生活しているA君や私の前では優等生になろうとしているB君を見ていると、この授業の取り組みは評価できると思っています。

(大阪市立緑中学校 大浦 純)

# 中養回イムズ

大阪市中学校  
特別支援教育  
担任者会  
第83号(3・4B)  
令和2年  
2月20日

## 1 年間特別支援の講師として

### 働いて感じたこと

#### 西淀中学校の特別支援学級について

現在、特別支援学級に在籍する生徒は1年生11名、2年生8名、3年生7名の計26名、知的障がい学級が9名、肢体不自由学級が2名、病弱・身体虚弱学級が3名、自閉症・情緒障がい学級が12名の6学級編成で、大半の生徒が抽出的時間に支援学級で勉強をしています。

私が所属する1年生の支援学級の生徒は、軽度の発達障がいの子が多く在籍し、通常学級の生徒とのトラブルなどで指導されることは少なくありません。どのように通常学級の生徒と学校生活を送っていくかが今後の課題です。

#### 特別支援を目指したきっかけ

中学校・高校保健体育の免許を取得し、昨年の3月大学を卒業しました。新任として西淀中学校の特別支援学級に赴任することになりましたが、自分は保健体育の教員として働きたいという気持ちの間で揺らいでいました。

右も左もわからないまま所属学年の入学式を迎えました。

間もなく、担任している生徒Aが通常学級の生徒から人権に関わる発言を受けたと報告があり、至急、学年・管理職、特別支援の教員を含めた会議を行いました。

その日のうちにAと保護者への謝罪をするため、私を含め、学級担任、特別支援コーディネーターの3名が家庭訪問を行いました。

学校側から保護者に対する謝罪、当該生徒とその保護者同席のもと謝罪する場を設けたいとお話しさせていただきました。

これに対してAの保護者は

「その言葉を受けたAは本当に可哀想ですね。また今回のようなことが起きると本人が不憫でなりません。ですが、相手もいつも通りに話していたみたいで悪気はないかと思っています。ですの、私たちへの謝罪は結構です。ご指導は先生方にお任せします。」と言いつつ、涙を流しながらAを見つめておられました。その姿に胸が詰まるような思いになりました。

その姿を見ているうちに私自身の可哀想という気持ちが悔しいに変わっていききました。Aの他にも、同じように傷ついている生徒がいるかもしれない。悲しむ生徒や保護者の姿をもう見たくない。私がもっと注意深くAを見ていればこのような結果にはならなかったのではないか。という反省の気持ちばかりが出てきました。

しかし、家庭訪問では学級担任と特別支援コーディネーターが保護者と話しているのを見ていただけで、Aにも保護者にも声をかけることができず、自分の無力さを痛感しました。この時、生徒や保護者を守る存在になりたい、特別支援の教員として生徒と関わっていききたいという気持ちが固まりました。

#### 支援学級の担当としてできること

通常学級の生徒は、私が支援学級の教員であることを知っているし、誰が在籍しているかもおおよそ知っています。ある時ふと思つたのは、通常学級の生徒に私が軽く見られるようなことがあつたら、担任をしている支援学級の生徒が馬鹿にされるのではないか。ただ支援学級の生徒を大切に思うだけでは駄目なのではないかということでした。

そこで、通常学級の生徒との良好な関係を築こうと考えたのです。

授業間の休憩や昼休みなどを活用して、通常学級の生徒と私が会話できる機会を増やしました。勉強や部活、学校生活、今ハマっているものなど様々な話をする中で生徒へのアドバイスをする、時には軽いジョークなどを交えました。

そうすることで、通常学級の生徒が支援学級の生徒に関心を持つてくれるのではないかと。正しい理解へのきっかけになるのではないかと。そして声掛けや手助けができるようになって、心無い発言を防げるのではないかとという考えを持ったのです。

そのためには私自身が、通常学級の生徒が支援学級の生徒の特性を理解できるように勉強していかなければなりません。

#### 実践して感じられたこと(支援学級の生徒B)

自閉症・情緒障がい学級に在籍しているBは、療育手帳B1を取得しております。とても明るい性格なのですが、様々なことに興味を持ち、夢中になり出すと他のことがまったく入ってきません。

そのBが2学期の校外学習「大阪市内班別行動」で、こんな経験をしました。

班単位で大阪市内の各施設を見学し、交通機

関の乗り継ぎ、マナーやルールを守って班員同士で協力します。班行動なので、心配もありましたが、Bがいる班に教員が付くことはできません。そこで、良好な関係を築いていたBのいる班の生徒に「Bを手助けしてもらおうことがあるかもしれないけど、よろしくね。」と声をかけておきました。

実際に、途中でBが動物園でたくさん動物に興味を引かれ、予定していた電車に乗れなかったということがありました。帰校が予定よりも遅くなり、私が班の生徒に謝ったところ、「Bのこともあつて遅くなったけど、いっぱい笑わせてくれてすこく楽しかったです。」と言ってくれ、Bに対しては「ありがたう。これから一緒に楽しもうね!」という言葉をかけてくれました。それを聞いた時、班の生徒への感謝の気持ちが湧き上がってきたのと同時に、私が通常学級の生徒に声をかけてきたことは、決して無駄ではなかったのだと感じることができました。

#### 終わりに

これらの経験は私に特別支援学級の教員として働いていくという決意をさらに確かなものにしてくれました。また、それが採用試験合格に繋がって、責任とさらなる自覚を持たせてくれたと思います。

これからも支援学級の生徒だけでなく、通常学級の生徒ともしっかりと向き合うことで、私が支援学級の生徒と通常学級の生徒を繋ぐ「架け橋」になり、彼らとともに私自身が成長していきたいという気持ちを持って日々取り組んでいきたいと思っています。

(大阪市立西淀中学校 松所 剛士)

## 七組生同士の仲間づくり

大正駅から徒歩八分のところに位置する本校では、特別支援学級のことを「七組」と呼んでいます。今年度は抽出授業を受けている生徒が多く、私が担当する一年生では過去最多の十人が二・五教科の抽出授業を受けています。(一月二八日現在)

抽出する生徒が増えたことで、休み時間に七組生同士で遊んだり、授業中に助け合ったりする様子を見ることが多くなりました。今回は、コグトレ(認知トレーニング)を用いた学習や発達年齢に関係なくアクティビティを楽しんでいる様子について、紹介します。

### ★コグトレで認知力強化!

本校では、二年前から「コグトレ」に取り組んでいます。

「コグトレ」とは、立命館大学の宮口教授によつて開発された認知トレーニングの略称で、①身体面を支える「認知作業トレーニング」、②学習面を支える「認知機能強化トレーニング」、③社会面を支える「認知ソーシャルトレーニング」の三つで構成されています。

主に、数学の時間を使い、生徒の能力に合わせた「点つなぎ」「さがし算」「鏡映し」「最初とポン」等のワークシートに取り組んでいます。

ここで紹介するのは、何人かで一斉に取り組むことができる「最初とポン」です。このワークは、動物の名前が出てきたら手をたたき、その刺激に惑わされずに文の最初の言葉を覚えるという、「注意して聞く力」を向上させるものです。本来は、複数の文(二・三文)が読まれてから、それぞれの最初の言葉を覚えてワークシートに記入する課題ですが、現在は楽しみながら機能強化を図るため、問題を細かく分けて一文ずつの課題にしています。負荷を減らすことで全問正解することができ、生徒たちからも「最初とポンやりたい!」という声が上がるほどです。また、二人程度でやる場合には小さなホワイトボードに答えを書かせることで、クイズ感覚で取り組むこともできます。

コグトレの効果は、長期的に見ていく必要があります。継続的な取り組みと、それを通じた生徒の実態把握こそ重要だと思っています。

### ★みんなで楽しむアクティビティ

#### ①調理実習

二期に、「レンジでできるガトーショコラ」と「トライフルパフェ」を作りました。

お金の計算が苦手な生徒と一緒に近所のスーパーで「だいたい値段は?」と会話しながら買い物したり、レシピを本から写して書いてもらったりと、事前準備の段階から発達に合った課題を織り交ぜながら進めました。当日は、目標と感

想の欄を設けたレシピに個人の目標を書いて共有してから調理を始めましたが、その目標以上に一人一人が頑張り、お互いに手伝ったり、譲り合ったり、頼みに応じたりしながら、作業を進めることができました。ガトーショコラはレンジの不具合で一失敗してしまったのですが、うまくできた一つをみんなで仲良く分けて食べました。

でもできるため、最も盛り上がっています。同程度の発達年齢の生徒同士で容赦なくアタックをして楽しむ様子、少し発達年齢の高い生徒が周りを気遣いながら遊んでいる様子を見ることができ、簡単な遊びを通して社会性を身につけることの大切さを改めて感じる事ができました。学年末テスト最終日には、希望者でアミティ舞洲に行きます。「テストは嫌やけど頑張ればアミティや!」とみんな首を長くして、その日を待っています。

(大阪市立大正東中学校 吉田 明日香)

#### お詫び

前回の「中養タイムズ(第82号)」の「第一ブロック教育研究会」の記事において事実でない誤った記述がありました。記事では、講師としてご発表いただいた方のお子様(が)在籍している中学校の対応に課題があるかのような表現がありましたが、確認の結果、実際は当該校では十分な対応がなされており、発表者もその対応を評価されていることが分かりました。

この記事においては、発表当事者に記事の掲載及び内容の確認が漏れていたことが分かりました。その結果、他校の事例が記述者の記憶の錯誤により混同したものと推察されます。

今回の記事により、関係する多くの方々にご迷惑をお掛けし、また、お心を害することになりましたことを深くお詫びいたします。

できあがった  
ガトーショコラ♪



#### ②身体を動かすゲーム

一月九日、チャレンジテストを受験しない生徒たちで、風船バレーやフリスビーをして楽しみました。勉強の息抜きにやったアクティビティがよほど楽しかったのか、七組の小さな教室でも連日、遊んでいる姿が見られるようになりました。特に、風船バレーは小学校時代にもやったことのある生徒が多く、簡単に誰

今後は編集段階で十分に注意し、このような不正確な記事が出ないように努めます。

中養タイムズ編集責任者  
担任者 会会長 寺本紀夫